

# 学 内 報 告

機械・材料・海洋系学科  
機械工学EP代表  
于 強

今年も機械工学EP・材料EPにおける入試、就職、教育のトピックスと教員に関する情報を報告させていただきます。まずは昨年度の話となりますが、大学入学者一般選抜試験が2月、3月に通常通り実施されました。幸いにして、志望者は、前期312名（募集定員74名）、後期529名（募集定員66名）と去年と2年前に比べると大幅に増え、最終的には、機械工学EPと材料工学EPは148名の新入生を受け入れることができました。

大学の授業なども去年と同様通常通りの対面開講を行うことができています。また、コロナが流行している間に確立されたオンデマンド開講の仕組みも引き続き活用され、特に国際議などに参加する先生方に活用されています。休講や補講などを行う必要はないため、学生からの好評が得られています。

就職と進学の事情ですが、令和6年3月の卒業生の就職と進学についても、機械系、材料系ともに大学院を含めて良好な状況が維持されています。また、大学全体のことですが、2023年度日経HRと日本経済新聞社が実施された企業の人事担当者から見た大学イメージ調査の結果、横浜国立大学は総合2位（総合得点32.91）となり、例年よりも高い評価が得られています。これは卒業生諸氏のご活躍の賜物であると感謝しております。

近年大学の活動に関して外部の評価の

重みが増えつつあります。機械工学EPの教員がMITでの経験を参考して考案されたROUTE（Research Opportunity for Undergraduates）の活動について今年度も理工学部運営諮問会議において、ROUTEプログラムにおける人材育成について、学生自身の自己評価及び外部発表（学会発表や学術論文の発表、文部科学省主催サイエンス・インカレなど）や受賞等の実績から、運営諮問会議より各教育プログラムの専門分野を越える広い視野と実践力の養成ができているとの高い評価を頂きました。機械工学EPにおいて令和6年9月30日にROUTEの成果発表会が実施され、多くの参加者から好評が得られました。また今年度において複数の教員が指導する学部横断の共同研究テーマをROUTEプログラムの研究テーマとして設定し、その共同研究テーマに対して研究費を支援することが決定され、さらなる発展が期待されています。

最後に、教職員の状況について報告します。令和6年度において在籍している教授、准教授、講師に関して機械工学EPは29名、材料工学EPは10名です。また在籍している若手の助教と特別研究教員に関して機械工学EPは4名、材料工学EPは1名です。機械工学EPの松本裕昭教授が令和6年3月31日に定年退職され、藤澤慶准教授が機械工学EPの常勤教員、また高崎緑教授が材料工学EPの常勤教員として令和6年4月1日に着任されました。去年と同様材料系の梅澤修教授が工学研究院長・理工学部長、機械系の眞田一志教授が理工学長として引き続き務められています。